

《日本の明日を寺社と共に。》

# 未来考創

寺社をテーマにした観光について  
未来志向で取り組む人を訪ね、  
日本の未来を共に考え、創造します。

社寺観光と訪日台湾人

第3回

公益財団法人日本台湾交流協会  
台北事務所 代表  
沼田 幹夫氏

台湾の人たちは日本に驚き、感動する。  
文化・伝統の継承と豊かな自然。  
その人から見た日本の魅力を理解すれば  
発信や工夫も変わってくる。

**廣瀬** 台湾では今、日本はどのよう  
に捉えられているのでしょうか？

**沼田** 平成30(2018)年度の訪日  
台湾人は約476万人。そのうちの  
約25%が「日本の歴史・伝統文化体  
験」に興味を持ち、実際に訪問して  
います。実は東アジア圏の国々で日  
本の社寺に最も興味を持っているの  
は台湾人なのですが、熊野古道の  
ように観光スポットとしてツアーに  
組み込まれている場所のほかに、日  
本人が気付いていない所がパワース  
ポットなどとして台湾の人に人気  
だったりもします。台湾も日本のよ  
うに多宗教が混在していますが、多  
くは現世利益を求めて訪れる場所で  
す。しかし日本はスピリチュアルで  
平和を求める心が日々の生活に密接  
に関わっています。そこには清々し  
さや静寂があり、それが台湾の人に  
とって魅力的に映ります。静かな空  
間だけでなく、例えばお香の香りに  
癒されるということも、体験した人

たちが台湾に戻って広め、それを知っ  
た人が訪日する流れが生まれていま  
す。欧米では日本の社寺に禅や精進  
料理など哲学的な要素を求めます  
が、台湾ではまるで違うのです。

**廣瀬** 社寺の建物(文化財)は、台湾  
の人にどう映るのでしょうか？

**沼田** 山中や山上の静かな空間、そ  
こへ向かう道、向かった先に何百年  
もある伽藍や仏像は、台湾人にとっ  
て今まで見たこともない価値観であ  
ることは違いありません。それが今  
日まで生きていくわけですから、感  
動するのです。そもそも台湾に大陸  
から人が移り住んで来たのは450  
年前程前。しかもその時期のものはあ  
まり残っていません。

例えば台湾で古くて最も全土にあ  
り美しく保存されている建造物の多  
くは、日本の植民地時代に建てられ  
たものです。ですから台湾の人から  
すると、比叡山や高野山、永平寺、  
身延山など長い歴史と共に伝統や文

化が生きている社寺は、どこへ足を  
運んでも感嘆するのではないでしょ  
うか。ただ大きな違いは、台湾の人々  
が母国で拝んでいる像というのは、  
お金を稼いできた人の像。日本の仏  
像をどのような思いで拝んでいるか  
は未知数ですが、これらは国が違え  
ば興味の対象がまるで違うという一  
例ですね。

**廣瀬** 今後の社寺観光に大切な目線  
とは何でしょうか。

**沼田** 台湾では、修行したり神仏を  
拝むのは自分だけのためですが、日  
本に伝わった仏教というのはむしろ  
皆で協力し合いながら社会をよくし  
ていくものだと思います。そしてそ  
の教えには自然環境が大きな影響を  
与えています。他者のために祈り、  
そして祈りの場所がこれだけ美しく  
維持されてきたことは、日本の誇り  
であり外国人には何よりの魅力で  
す。このあたりの違いを理解するこ  
とは、今後の世界的な観光の流れの  
中で重要だと思っています。



聞き手／廣瀬崇之  
一般社団法人全日本  
社寺観光連盟理事。元  
内閣府特命担当大臣秘  
書官、文化観光リサー  
チ株式会社代表

沼田幹夫／元 在ミャンマー連邦共和国 日本国特命全権大使、平成26(2014)  
年より現職。台湾と日本は国交がないため、台北事務所代表は国交樹立国で言  
う大使にあたる